



中藤っ子

LOVERS

令和6年度 No. 9
 福井市中藤小学校だより
 発行日 令和7年1月8日(水)
 〒910-0837 福井市高柳 3-3001
 TEL:54-3823 FAX:54-3874

謹賀新年 今年もよろしくお祈いします

2025年(令和7年)巳年がスタートしました。皆さんは、新しい年明けをどのようにお迎えになりましたか。気持ちを切り替えるという意味でも、新年や新年度は、一つのチャンスといえます。

今年の干支は「巳」であり、へび年とも呼ばれます。「巳」の文字がおなかの中の赤ちゃんの姿を表していたり、へびは脱皮をくり返したりすることから、へび年は、新たな始まりや変化、再生や成長の年とも言われます。

「一年の計は元旦にあり」という言葉があります。これは、元旦(1月1日)に立てた計画に基づいて、物事を進めるとうまくいくということわざです。何事も始まりが肝心で、それに伴う努力も欠かせません。

子どもたちには、新たな目標のもと、切磋琢磨して、自分の力を高めてほしいと願っています。また、学校としても、ご家庭と地域の皆様と協力しながら、目標に少しでも近づけるような支援をしていきたいと考えています。今年もよろしくお祈いします。

(文責：勝木)



ある日の出来事から

地域の歴史に思いを馳せて…～3年生総合「いくぞ!中藤島トレジャーハンター」～

12月2日、3年生が、総合的な学習の時間に地域にある「黒龍神社」に出かけました。目的は、黒龍神社を見学し、由来や歴史、左義長祭りについてお話を聞くためです。児童は、舟橋町や九頭竜川の歴史をはじめ、神社の由来や祀られている神様、1年間の行事について教えていただきました。中藤島地区が古くから栄え、歴史ある地域だということが分かりました。



学びの力を確かめるために… ～5年生「SASA福井県学力調査」～

12月3日、5年生が「SASA(福井県学力調査)2024」にチャレンジしました。普段の単元テストとは異なり、冊子になった問題を解いていきます。児童は、問題を読みながら熱心に取り組んでいました。この調査の目的は、知識・技能や思考力・判断力・表現力等がどれくらい身についているか、自分の力を知るためです。教室からは鉛筆で書く音だけが聞こえていました。



今年最後の締めくくり… ～全校 なかよしタイム～

12月6日、今年度4回目のなかよしタイムがありました。4回目ともなると6年生リーダーも慣れてきて、45分の間、上手にゲームの進行を行っていました。風船バレーやボーリング、色札めくりなど、下級生に楽しませていました。6年生がリーダーのなかよしタイムも残りわずかとなりました。



1年生さん、いらっしゃい! ～2年生生活科「おもちゃランド」～

12月10日、2年生の生活科の学習として、体育館で「おもちゃランド」を開催しました。2年生がグループごとにつくった手作りおもちゃで、1年生のお世話をしながら、遊んでもらうという学習です。2年生3学級20カ所のブースを使って、1年生をもてなしました。ゲームは、射的や風力自動車競走、クレーンゲーム等、工夫の見られるものばかりでした。あわせて、1年生へのお世話では、上級生ぶりを発揮していました。

2月の、来年度入学予定幼児(園児)を迎えて行く「わくわく交流デー」では、1年生がお世話することになります。今回の経験が生かされることを願っています。



日本古来の楽器に触れて…

～ 5年生音楽「和楽器体験教室」 ～

12月12、13日、5年生が、音楽で「和楽器体験学習」をしました。前半に分かれて、琴と尺八の使い方について学びました。琴では、琴用の独特な譜面を見て、「サクラサクラ」を弾いてみたり、尺八は、音を出してみたりしました。特に尺八では、なかなか音が出ず悪戦苦闘していましたが、次第にコツをつかんで音を出していました。

最後に、講師の方々による琴と尺八の演奏で「春の海」などを鑑賞しました。一足早くお正月が来たような気分になりました。



プログラミングに親しみました

～ 5年生「プログラミング学習」～

12月13日、5年生が、マイクロビットを使って「プログラミング学習」に取り組みました。マイクロビットは、手のひらサイズの小さなコンピューターで、音を出したり光らせたり、いろいろな機能が備わっています。これを動かすためにプログラミングを学ぶのです。

児童は、コマンドの書かれたブロックを組み立てながらマイクロビットを動かしました。自分が考えた通りに動くように根気強くチャレンジしていました。



ストップ・ザ・違法薬物！

～ 6年生「薬物乱用防止教室」 ～

12月19日、6年生を対象に「薬物乱用防止教室」がありました。講師は、学校薬剤師さんです。いろいろな違法薬物がある中で、現実には起きているニュースを例に身体や精神に与える影響について話がありました。また、一回使っても「乱用」ということに驚いていた児童もいました。

青少年にとって薬物乱用の入り口になるのは、たばこやお酒などのアルコール類です。成長期の児童の脳に与える影響は0ではありません。最後にその話を付け加えて、教室は終わりました。



校長室から

～「やり返す」から「やられっぱなしで終わらない」という考え方へ～

本校では、残念ながら児童間のトラブルが絶えません。未成熟な子どもたちなので、人との関わり方での失敗は起こりうるわけで、そのほとんどが些細なことなのですが、これが、**暴力や暴言・冷やか・からかいであれば、見過ごすわけにはいきません。**当事者相互に事実確認をした後で、指導をしています。なぜなら、それはいじめや不登校につながる人権問題だからです。

ただ、解決を難しくしているのが、「やられたら、(暴力・暴言で)やり返す」という考え方です。いわゆる「目には目を」では、負の連鎖をくり返すことになり本質的な解決はしません。しかも大人になってからも引きずるので、今のうちから正しいことを教えなければなりません。

確かに、「やり返さなければやられっぱなしになる」という考え方は否定しません。大人社会でも同じですが、やり返さないと、泣き寝入りとなり立場は変わらないからです。ただ、言い方としては、「**やられても、やられっぱなしで終わらない**」が適切でしょうか。つまり、子どもの人生を考えるならば、やり返す(=暴力・暴言)以外の方法を考えさせることが大切です。

その方法として、**「やられたら、やめて」と自分から言えるようにすること、それが無理なら、誰かに助けを求め(先生や親、友達に相談)させるようにすることが考えられます。**

そして、今後、健全な関係を再構築する上でも、なるべく当事者同士の話し合いで解決できるようにすることが大切です。

本校では、**身体的暴力(殴る・蹴る・つねる等)や心理的暴言(「ブス」「デブ」「間抜け」等の侮辱や「死ね」「殺す」等の脅迫等)、それにつながる遊び(プロレスごっこ・戦いごっこ等)には、毅然とした対応をとりたい**と思います。

ご家庭でも、人との関わり方や暴力や暴言によらない解決方法について、お子さんと話し合っていたいただきたいと思います。

ある方に聞きました。暴力されたからといって暴力で返したら、きっかけによる情状酌量はあっても、お互いが暴力を振るったことは変わらないのだそうです。また、仕返しを指示した場合、「教唆」という考え方もあるそうです。

「暴力をやった者が負け」というのは、日頃、私が子どもたちに投げかけている言葉です。

